

あ と が き

『ルーテル学院研究紀要』第54号が、皆様のご協力により発刊できました。

昨年2月に「あとがき」を記してから1年の間に、社会が、世界が、大きく変わりました。新型コロナウイルス感染症が広がり、多くの方の健康が損なわれ、大切な命が奪われました。感染症は身体の病気ですが、その影響は社会活動全体に及んでいます。命の重さや人生の意味、人との関わり方、心の健康などについて深い問いが突きつけられています。

そのような問いを追求して、研究や教育に取り組んでいるルーテル学院大学の働きの一つが研究紀要の発行です。

紀要第54号には、社会福祉関係の論文1本と、キリスト教関係の論文2本を掲載することができました。それぞれの著者の貴重な研究の成果を伝える労作・力作です。

本学『研究紀要』は昨年の第53号から、印刷製本した冊子体での配布を取りやめて、電子媒体での発行に一本化したしました。これまで冊子で発行した研究紀要もデジタル化して機関リポジトリに掲載しております。

ルーテルリポジトリ（ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校機関リポジトリ）には、下記のURLからアクセスできます。

<https://luther.repo.nii.ac.jp>

リポジトリには、『テオロギア・ディアコニア』という誌名で発行されていた第30号（1996年度）から第38号（2004年度）までの論文と、改題後の『ルーテル学院研究紀要』第39号（2005年度）以降に掲載された論文を収録しております。

今後も、第29号より前の『テオロギア・ディアコニア』に遡って、順次リポジトリに登録して参ります。

ぜひ、多くの皆様にお読みいただきたいと思います。

また、「投稿規程」と「投稿票」もウェブサイトから入手していただけます。

<https://www.luther.ac.jp/education/kiyou/>

原稿の受け付けや査読、編集のために紀要編集委員会専用のメールアドレスを設けました。投稿原稿の提出はメールで受け付けます。

キリスト教・社会福祉・臨床心理の対話や協働の場として、また研究と教育の良い循環を作る場として、『紀要』が発展して行けますように、これからも暖かいご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。（加藤純）

2021年2月

紀要編集委員会

加藤 純（委員長）

市川 一宏

福島 喜代子

ジェームス・サック

上村 敏文

石川 与志也